

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川区
学校名	大阪市立東三国小学校
学校長名	竹本 弥生

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東三国小学校では、第6学年 63名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

対全国比の平均正答率では、国語科、算数科、理科すべてにおいて大阪市平均・全国平均を大きく上回った。

平均無回答率は、国語科、算数科、理科すべてにおいて大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。児童は、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢が定着しつつあるといえる。

また、国語科は記述式問題の正答率が大阪府平均・全国平均より下回った。算数科は選択式、短答式の正答率が大阪府平均・全国平均よりも上回っていた。理科は、学習指導要領の区分・領域のすべてにおいて、大阪府平均・全国平均を上回った。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### 〔国語〕

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」領域において大阪府・全国平均正答率を上回り、「読むこと」領域において大阪府・全国平均正答率に及ばなかった。「話すこと・聞くこと」の思考・判断・表現の問題では全国平均を10ポイント以上上回る正答率であった。一方で、「読むこと」の思考・判断・表現の問題では全国平均を10ポイント下回る正答率となつた。文章の要旨を把握することに課題が見られた。

### 〔算数〕

ほぼすべての領域において大阪市・全国平均正答率を上回り、「変化と関係」領域において全国平均を9ポイント、「数と計算」では全国平均を5ポイント以上上回った。「台形の意味や性質について理解しているかどうか」の問題では全国平均を18ポイント以上上回る正答率であった。一方で、「データの活用」の思考・判断・表現の問題では全国平均を10ポイント以上下回る正答率であった。データを活用し記述する力に課題があるといえる。

### 〔理科〕

学習指導要領の区域・領域B区分について大阪府平均・全国平均の正答率を上回った。特に「『生命』を柱とする領域」については、全国平均の正答率を10ポイント上回った。「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうかをみる」等の植物の観察についての知識・技能や思考・判断・表現について成果が見られた。

質問調査より

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目に肯定的に回答する割合が全国平均・大阪市平均より高かった。これは、子ども同士のかかわりを大切にした授業づくりや、たてわり班活動をはじめとした望ましい集団づくりを続けてきた成果として捉えることができる。「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の質問項目に肯定的に回答する割合も全国平均・大阪府平均より高かった。ほとんどの児童が安心して学校生活を送っていると捉えることができる。

授業時間以外の学習について、全くしない割合は全国・大阪府平均を下回っており、1時間以上の学習に取り組んでいる割合は大阪市・全国平均を上回っている。家庭での学習時間を確保することが昨年度よりの課題であったが改善されてきつつある。

## 今後の取組(アクションプラン)

- 個別最適な学びと協働的な学びを往還する授業づくりを進める。
- 児童が意欲的に学べる課題設定などの授業改善を進め、児童一人ひとりが主体的に読み取り、考えを深める力の育成を目指す
- 「学びサポーター」を有効に活用し、個に応じた学習支援と指導の充実に努める。
- 学習習慣の定着のため、家庭学習の重要性を保護者に啓発する。

## 【 全体の概要 】

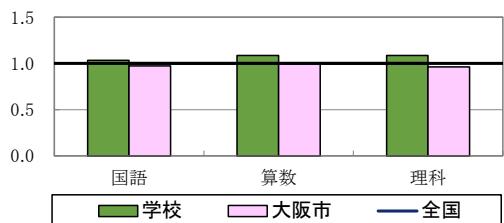
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	69	63	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

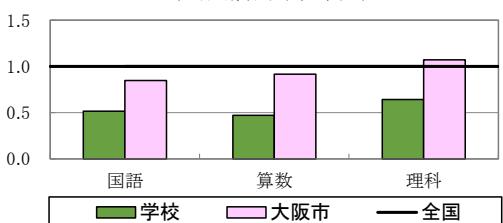
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.7	1.7	1.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



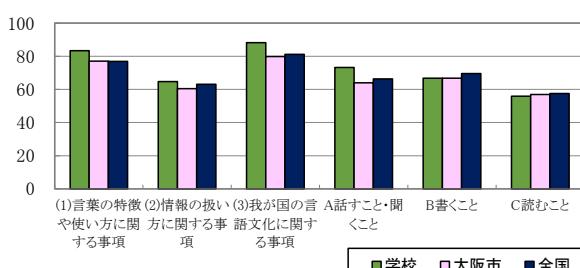
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	83.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	64.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	88.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	73.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	66.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	55.9	56.9	57.5

## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	67.9	62.7	62.3
B 図形	4	63.7	56.4	56.2
C 測定	2	60.8	54.9	54.8
C 変化と関係	3	66.0	58.2	57.5
D データの活用	5	66.7	61.9	62.6

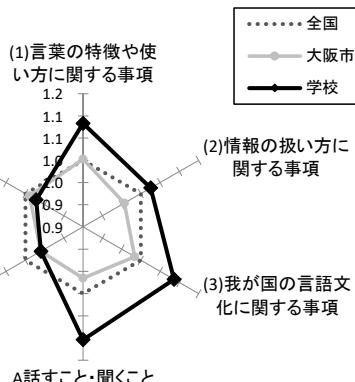
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



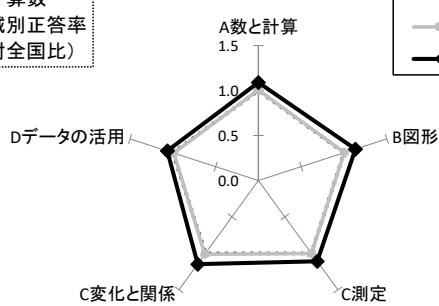
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

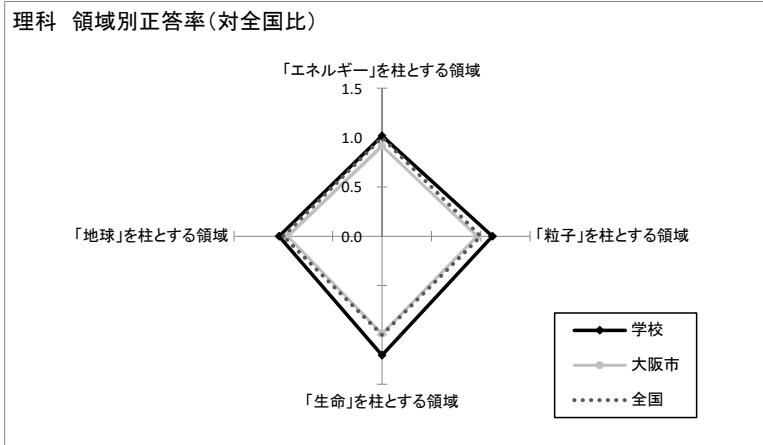
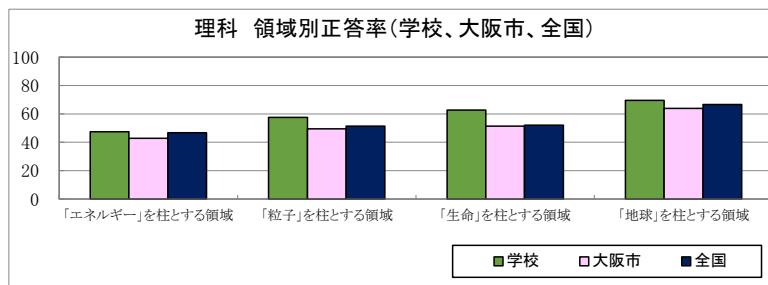


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.5	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	57.5	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	62.7	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	69.6	63.8



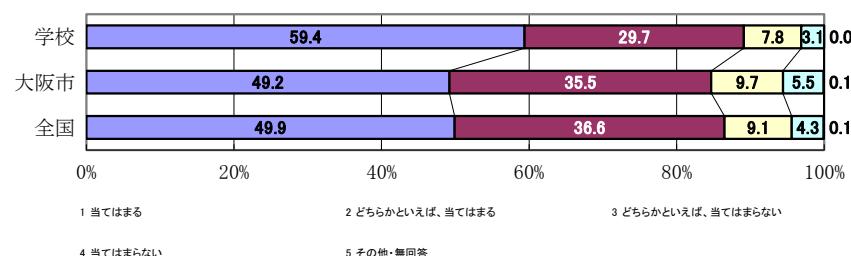
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

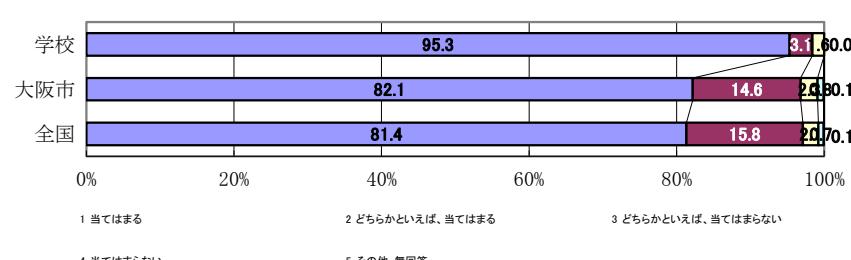
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



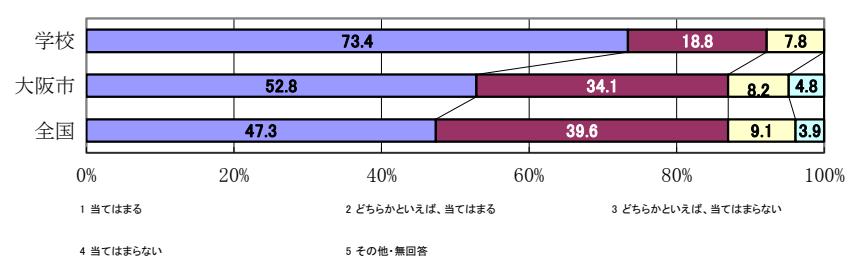
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



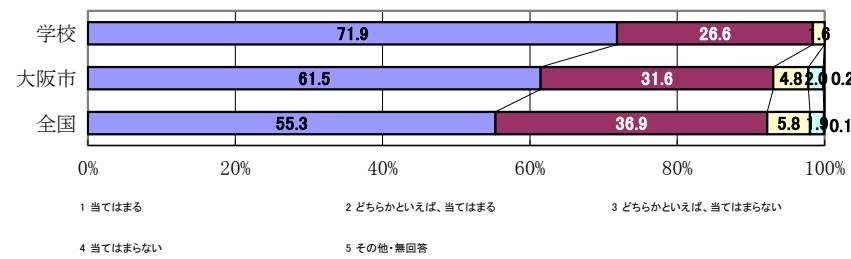
5

自分には、よいところがあると思いますか



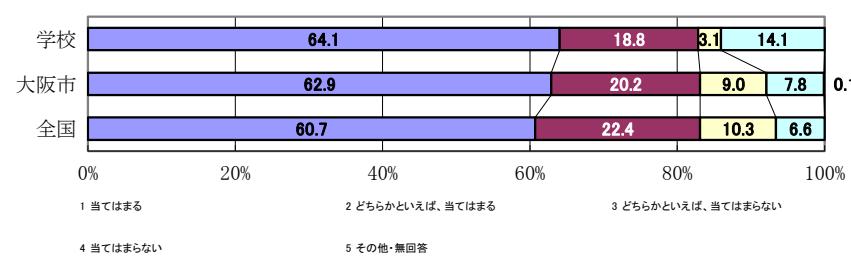
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



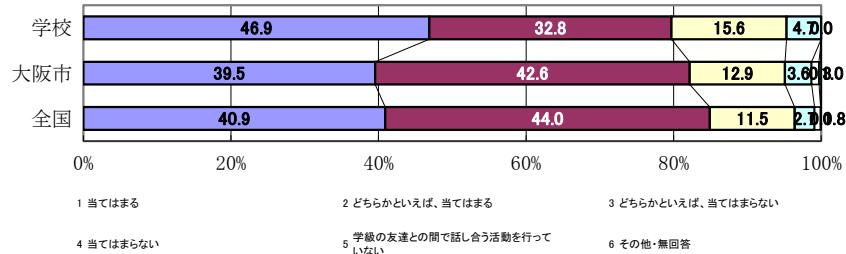
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号  
質問事項

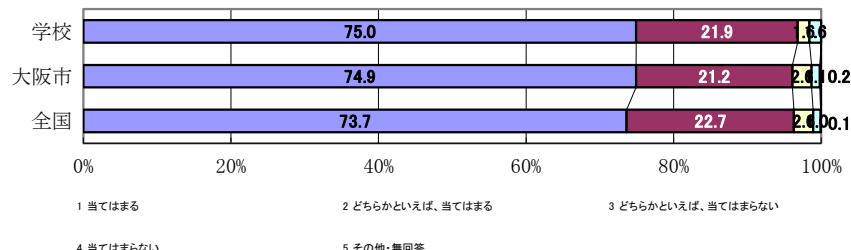
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



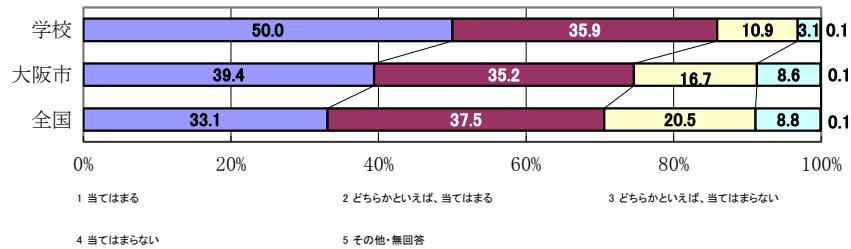
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



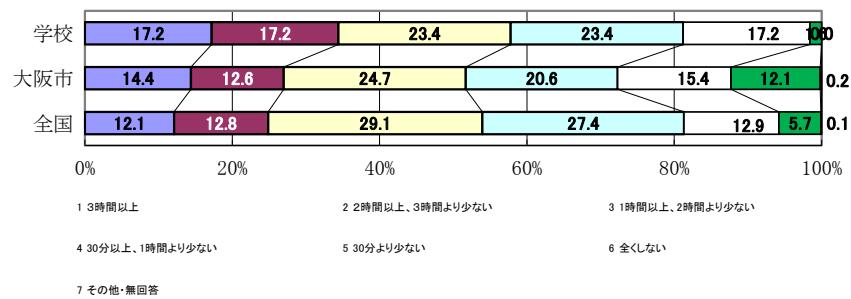
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人についてでも相談できますか



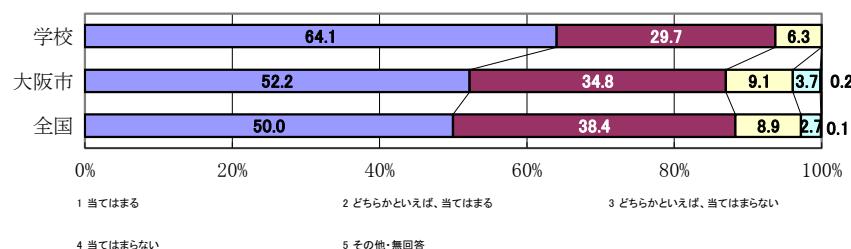
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



69

理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



## 学校質問より

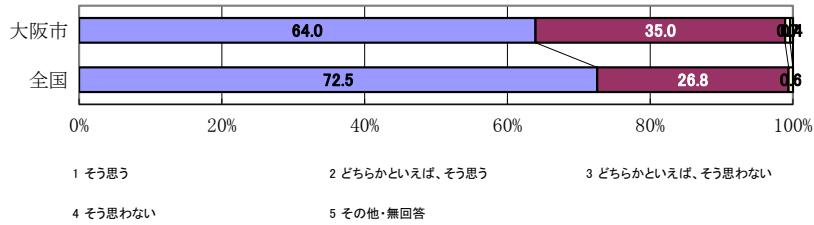
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いませんか

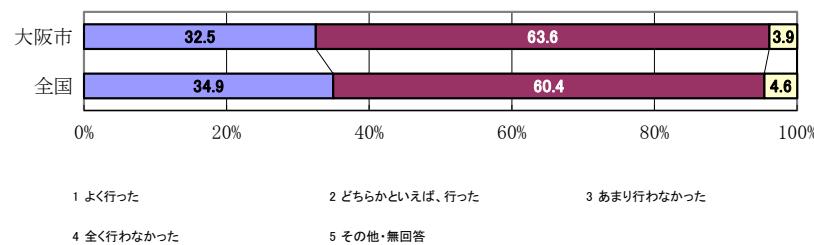
### 学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

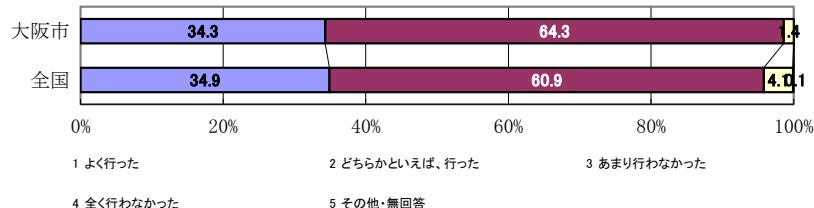
### 学校 「どちらかといえば、行った」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるよう指導を行いましたか

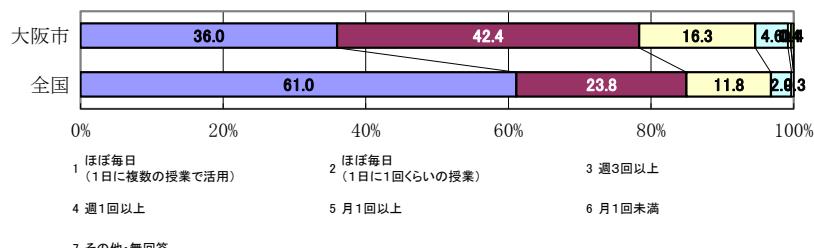
### 学校 「どちらかといえば、行った」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

### 学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択



### 学校 「」を選択

